

解説

中山誠二<sup>1</sup>・那須浩郎<sup>2</sup>：  
 特集「縄文時代のマメ科植物のドメスティケーション」  
 Seiji Nakayama<sup>1</sup> and Hiroo Nasu<sup>2</sup>：  
 Domestication of legumes during the Jomon Period

日本列島原産の栽培植物はワサビやミツバなどの数種の蔬菜類に限られ、そのほとんどが弥生時代以降にもたらされた大陸起源の外來植物だと考えられてきた。しかし、近年の植物考古学研究によって、縄文時代に遡るダイズ属やササゲ属アズキ亜属のマメ科植物が縄文時代草創期から晩期末に至る120カ所を超える遺跡で確認されるようになり、今から1万数千年前以降は地域や時期的な粗密はあるものの継続的あるいは断続的に利用されていたことが明らかになってきた。そうした研究過程で、ダイズ属とササゲ属アズキ亜属のマメ科植物が日本列島においてドメスティケーション（栽培化）された可能性が議論されている。

ドメスティケーションに伴う形質変化の中で特に注目されたのが、縄文時代における種子の大型化に関する時間的変化である。栽培化症候群の一つの特徴である種子の大型化は、すでに複数の研究者によって確認されているが、その現象が栽培化（ドメスティケーション）を立証した事になるかについては、なお慎重な意見がある。

このような状況をふまえ、2021年秋に実施した第36回日本植生史学会山梨大会では、標題のタイトルでシンポジウムを開催し、縄文時代の日本列島において果たしてマメ科植物のドメスティケーションが進行したのか否かについて、遺伝学、育種学、生態学、人類学、考古学などのさまざまな視点から議論を行った。

その主要な検討課題は、

- 野生植物・栽培植物の違いとその認定方法
- 栽培植物への形態的、遺伝的な形質変化
- ドメスティケーションの起源地域と年代
  - ・ 中国大陸、朝鮮半島、日本列島を含む東アジアの状況
  - ・ 単一起源か、多起源かの問題
  - ・ 遺伝学、植物考古学による考え方

日本植生史学会 公開シンポジウム  
 帝京大学文化財研究所・山梨県考古学協会 共催

**縄文時代のマメ科植物の  
ドメスティケーション**

500µm

2021年10月30日（土）  
10:00～16:30

基調講演：遺伝学・育種学からみたマメ科植物のドメスティケーション  
 （友岡憲彦：農研機構遺伝資源研究センター）

基調報告1：中国・韓国・日本列島での検出状況とマメ科植物の変化（小畑弘己：熊本大学）  
 基調報告2：縄文時代のマメ科植物の形質変化（中山誠二：帝京大学文化財研究所）  
 基調報告3：縄文時代の人間-植物関係をどのような視点と方法で説明するか（山田昌久：東京都立大学）  
 基調報告4：マメ科の人類生態学・歴史生態学（高瀬克範：北海道大学）

パネルディスカッション

\* 演題は変更になる可能性があります

会場：帝京大学文化財研究所（山梨県笛吹市石和町四日市場1566-2）  
 \* 石和温泉駅から徒歩25分。駐車場あり。

定員：会場での参加は先着40名ですが、オンライン配信も行います。

申込：会場・オンライン参加ともにネットでお申込みください。（10月22日締切）

参加費：無料

問い合わせ先：hisbot36@googlegroups.com

申込はこちら



写真1 第36回日本植生史学会山梨大会シンポジウムのポスター。



写真2 第36回日本植生史学会山梨大会シンポジウム。新型コロナウイルス禍に対応して、会場とオンラインのハイブリッド形式で開催された。縄文時代のマメ科植物のドメスティケーションについて多角的に議論が行われた(2021年10月30日)。

- 野生植物から栽培植物への変容プロセス
- ドメスティケーションの発生要因
  - ・自然的要因と人為的要因
  - ・人為的要因に関連した人為的行為
  - ・植物と人間との関係性ならびに両者の共進化など、多岐にわたった。

本特集は、これらのシンポジウムを踏まえて、パネリスト及び討論司会者から論文を投稿して頂き構成したものである。シンポジウムでは言い尽くせなかった諸問題やさらなる研究成果についても触れられており、縄文時代におけるマメ科植物のドメスティケーションに関する最先端の知見が盛り込まれている。しかし一方で解決すべき多くの課題も浮かび上がってきたのも事実である。本特集がその課題解決と解明の糸口となり、「植物のドメスティケーション」とは何かを改めて問い直すきっかけとなる事を期待している。

<sup>1</sup> 〒406-0032 山梨県笛吹市石和町四日市場1566 帝京大学文化財研究所 Research Institute of Cultural Properties, Teikyo University, 1566 Isawacho, Yokkaichiba, Fuefuki-shi, Yamanashi 406-0032, Japan

<sup>2</sup> 〒700-0005 岡山県岡山市北区理大町1番1号 岡山理科大学基盤教育センター Center for Fundamental Education, Okayama University of Science, 1-1Ridai-cho, Kita-ku, Okayama 700-0005, Japan